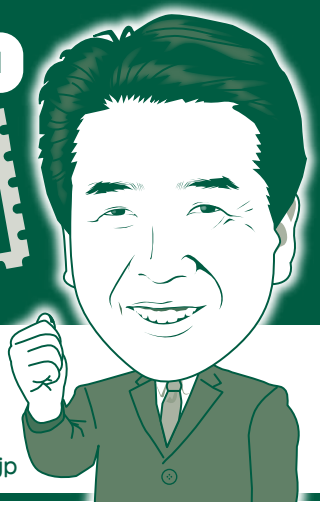
札幌市議会 市政報告 vol.4 2012.11

林せいじ 市政だより



市民が主役の街づくり。

［発行者］札幌市議会民主党・市民連合
〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 ☎011-211-3212
林せいじ事務所 〒002-8025 札幌市北区篠路5条2丁目3-14
☎011-775-6321 FAX011-775-6322
http://hayashi.main.jp/ hayasi-seiji-jimusyo@biscuit.ocn.ne.jp

2012年 第3回 定例札幌市議会閉会

◎2011年度 決算認定される

札幌市議会第3回定例会は9月20日に召集され、代表質問、常任委員会、決算特別委員会などにより、主要な議案である2011年度各会計決算やその他議案について議論し、2011年度決算を認定し、その他の議案を可決して11月2日閉会しました。

私は第2部決算特別委員会の理事として委員会運営対応や会派内での意見調整などをしながら、6回の質問を行いました。質問の概要は2面以降に記載しますので一読していただきたいと思います。

札幌市も様々な課題があり、厳しい財政事情の中で、2011年度予算は東日本大震災からの復興に向けた支援や、その後のエネルギー問題への対応など、多様化する市民ニーズを的確にとらえながら行財政運営を行ってきたところです。

政府が決定した北海道新幹線の札幌延伸や、北海道フードコンプレックス特区及び札幌コンテンツ特区の認可により国際都市札幌としての飛躍が期待できる状況もあり、全国一と言われる札幌の魅力と誇り、豊かな生活環境を次世代に引き継ぐという使命感を持って、市政推進に取り組んでいきます。

札幌市議会議員 林 せいじ

2012年 第3回 定例札幌市議会

決算特別委員会ダイジェスト

第３回定例札幌市議会において、決算特別委員会が開催されました。私、林せいじは６回の質問を行いました。主な質問を掲載します。

質問の様子は動画でもご覧になれます。詳細は札幌市議会ホームページなどでご確認ください。

http://www.city.sapporo.jp/gikai　札幌市議会　検索

第3回定例会で可決された補正予算（建設委員会関係分）

主な建設局補正予算

	事業名	事業内容	事業費
地域経済対策	道路新設改良費	生活道路など整備（市内一円 18路線 3.1km）	293,000,000円
地域経済対策	舗装道路整備費	舗装路面改良（市内一円 27路線 15.9km）	691,000,000円
地域経済対策	河川整備費	河川整備（赤坊川支線排水）	30,000,000円
		建設局合計	1,014,000,000円

都市局補正予算

事業名	事業内容	事業費
住宅補修費	市営住宅の老朽か所の計画修繕の実施	200,000,000円
保全推進事業費	一般施設（学校、市営住宅、廃棄物処理施設を除く）計画的な保全	624,000,000円
	都市局合計	824,000,000円

札幌市は第3回定例会に一般会計補正予算を提案しました。私の所属する建設委員会関係では、厳しい状況にある札幌市の経済・雇用情勢を考慮し、地元中小企業などの受注機会に資する社会資本整備として、老朽化した市営住宅など市有施設の修繕、道路・河川の整備にかかる経費を追加しました。

就労ボランティア体験事業について

就労ボランティア体験事業について札幌市から「生活保護受給者を対象にボランティア活動を通して、就職に向けてのステップアップ的な支援として事業展開している。厚別区で先行実施し、白石区、豊平区で実施している」と報告があり、各区の実施状況を質問したところ、「厚別区26名、白石区16名、豊平区18名が参加し、厚別区では4名が就職している」と答弁がありました。

札幌市は今後2014年度には10区全区で行うとしていることから取り組みに当たっての考え方を質問したところ「10区で400名まで拡大する、ボランティアの受け入れ事業所の開拓などに力を入れ取り組む」と答弁がありました。

今後事業を拡大し定着していくためには、各区のケースワーカーと事業者のボランティアコーディネーターとの連携が重要です。来年度においてもケースワーカーの必要数の増員を図ることを強く求めていきます。

さらに、ボランティア先の確保についても事業者にかかる負担が大きいことから、市としてのかかわりも強めていく必要があり、体制整備を進めることも併せて求めました。

サピカ利用拡大について

サピカのバスや路面電車への利用拡大は2013年度第1四半期の実施とされていたが具体的にはいつからか、またJR各社のICカードの市内交通網での利用開始時期はいつからになるか、新たなサービスはどのようなものを考えているかと質問しました。

「サピカのバス及び路面電車への導入は来年の6月から定期券以外に導入し、これでウィズユーカードと同じように地下鉄、バス、路面電車との乗継に使える、JR各10社のカードはできるだけ間をあけず導入予定である。新たなサービスとして、障がいのある方もICカードで乗車できるようになり、また、こどもの福祉割引が地下鉄で新たに適用になる」と答弁がありました。

今後の地下鉄の需要喚起を目指すには、さらに市民の声も聴き、市民サイドからも使いやすい便利なカードだと言われるよう取り組みを強化していく必要もあります。また、サピカのバス及び路面電車への導入で市民に普及が進むことと思いますが、今以上のサービスの開発などに努めていく事を求めました。

サピカ（上）、キタカ（左）、スイカ（右）

道路空間の再構築について

限られた予算の中で、効果的に道路環境改善を行うためには、既存の道路空間の再配分という考え方が有効であると民主党・市民連合は求めてきました。昨年の実施状況はどのようになっているか、また実施による効果はどのようなことがあるか、歩行者や自転車利用者の視点も生かす必要があり、どのように考えているかと質問をしました。

「2車線道路の道幅の有効活用で右折レーンの設定を進めている、バス会社などのアンケートでもストレス軽減になったなど好評である、調査などでも通行がスムーズになっている」と答弁がありました。

今後も一方的な推進とならずに、バス事業者、運送業者、タクシー会社などの意見、地域の意見なども参考に効果を検証していくことが必要であり、限られた予算を効果的に活用するという基本方針を守り、より札幌市の交通事情にマッチした道路施策とすることを求めました。

配水管更新計画について

札幌市においては、高度経済成長や市地域の急激な発展による、給水需要の増加に合わせて、配水管を整備してきております。今後はこれらの多くの配水管が次々と更新時期を迎えます。

更新計画に基づき新たな更新事業を進めて行くことになりますが、本計画の対象となる配水管延長は約4,750kmと非常に膨大であり、すべての管路を更新するためには長い年数が必要です。そこで具体的な考え方及び年間の更新計画はどの程度か質問しました。

「ある程度の年数に区切り、その期間内に更新すべき管路や事業量などを明確にし、計画的に進めて行く。年間60kmの予定で、総延長4,750kmの壮大な事業であり、予定数を更新するまでで約80年となる」と答弁がありました。

市民の暮らしに大きくかかわる水道事業の根幹は安全な水道水の提供であります。管路の更新事業はその土台となる重要な事業です。そして札幌市の多くの土壌は泥炭地であり、管路の延命化が必要な土地であります。計画的な管路更新と場合によっては前倒しなどの柔軟な対応ができるよう見直しも実施しながらの事業展開を求めました。

林せいじ活動報告

建設委員会視察

小林峠トンネル新設工事現場

9月19日に建設委員会で道道西野真駒内清田線の通称小林峠トンネル工事現場の視察へ行きました。このトンネルは中央区と南区を結ぶ道路の冬期間の安全走行確保のためトンネルを新設する工事です。このトンネルルートの土砂にヒ素などの有害物質が含まれているため、工事残土の扱いに対して、処分地の候補となっている中ノ沢地区の市民から反対の意見が出されていることから、残土の処分方法を検討していたところです。

民主党・市民連合では、昨年9月の財政市民委員会においてこの問題を指摘しておりました。札幌市は、トンネル内に分岐トンネルを掘削して、現場内に有害物質を含む残土を閉じ込める方法を、専門家の意見などを参考に検討して実施を決定しました。

この分岐トンネル工事により、有害物質を現場処理することは全国的にも珍しいケースとなり、今後の工事に大きな影響を与えることとなると思います。

小林峠トンネル内にて

経済雇用対策・新幹線等調査特別委員会

青森市・新青森駅を視察

11月7日から9日まで、さいたま市と青森市へ行政視察で行ってきました。

さいたま市では、経済振興ビジョンと雇用対策について、青森市では新幹線開通による土地区画整理事業と観光施策について視察してきました。

青森市は東北新幹線の終着駅となる新青森駅開業（2010年12月）に向けて、2002年より新青森駅周辺の石江地区の区画整理事業を開始しました。新青森駅周辺の観光、宿泊、公共施設などのエリア、国道7号線付近の商業エリアとその他の住宅エリアに分けて区画整理を進めています。青森市の場合は新幹線が青森駅に乗り入れできずに新青森駅を設置したことにより、新青森駅周辺の開発を行うこととなりました。新青森駅は青森駅と4kmの距離があり、市内中心部への交通網整理と観光対策を考慮し、「ねぶたん号」というシャトルバスを運行しています。新青森駅を基準に観光名所を回り市内中心部へ移動できるバスです。

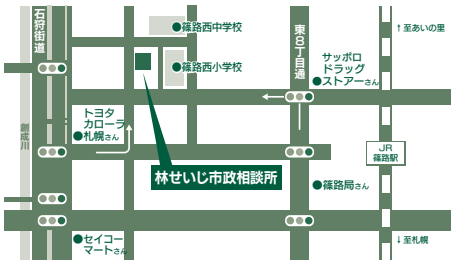
青森市の場合は新幹線が開業して観光客も増加してきたところで、東日本大震災が発生したため、新幹線効果がまだ発揮できず、ようやく震災前の状況まで戻ったようです。また、青森市は昔から函館市との関係が深く、観光施策でも函館市との連携施策が多く実施されています。さらに新幹線開業により、青森県内や東北地域での観光施策連携も実施されています。

札幌市においても新幹線乗り入れは約25年後ですが、駅周辺整備や新幹線駅の構想など長い年月が必要であり、JRや北海道とも連携して準備を進める必要もあります。また、函館までの新幹線開通は約3年後であり、航空機中心の観光施策から、函館市と連携し、北海道新幹線を使用して北海道に来られる観光客対策も検討しなければならないと思います。

先の第3回定例会第2部決算特別委員会において観光文化局へ質問しましたが、道内の各市町村との相互貢献による観光施策の実施で、北海道観光全体の盛り上げを図る必要性も高いことを再認識しました。札幌市においても新幹線延伸が遠い将来と考えずに、早期に具体的計画を作成して取り組む必要があると考えます。

新青森駅にて

お知らせ

市政相談の際は、
お気軽にお立ち寄りください。

〒002-8025 札幌市北区篠路5条2丁目3-14
TEL 011-775-6321　FAX 011-775-6322